

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第1回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和4年10月11日(火) 午後7時00分～午後9時00分		
開催場所	茅野市役所 議会棟 大会議室		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、両角薫委員、戸川榮司委員、伊藤あや子委員、大作公明委員、小坂秀王委員、北澤いずみ委員、木村香穂里委員、名取哲男委員、市川八史委員(代理)、加藤昌志委員、宮原渉委員(代理)、宮坂雅昭委員、勅使川原はすみ委員、古畑祐二委員、竹村清子委員</p> <p>【市側出席】 今井市長、山田教育長、五味こども部長、守屋地域福祉課長(代理長田係長)、斎藤健康づくり推進課長、阿部こども課長、柳澤幼児教育課長、五味学校教育課長、笹岡幼児教育係長、両角こども・家庭支援係長 宮下こども係長、飯島こども係こども育成担当、小平こども係主査、高橋こども係主査</p>		
欠席者(委員のみ)	岩下ふみ子委員、渡辺修委員、原田正樹委員、味澤広明委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍聴者の数 2人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>1 開会(こども課長)</p> <p>2 委員委嘱(市長による委嘱書授与)</p>		
市長	<p>3 市長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。本日は令和4年度第1回こども・家庭応援会議に、大変お忙しいところお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。また、只今は、皆様方に委嘱書をお渡しさせていただきました。これから御厄介なりますけれども、どうぞよろしくお願いをいたします。</p> <p>さて、本会は、茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例、この条例に基づきまして、地域ぐるみで子育て、子育てを応援支援していくための、計画、こども家庭応援計画、通称どんぐりプランでありますけれども、こちらの進行管理を行う場となっております。</p> <p>本日はどんぐりプランについての事業内容、進捗状況を皆様方にお諮りをさせていただいて、今後の進行管理について、ご審議をいただきたい、そんなふうに考えているところであります。</p> <p>それぞれの立場から、子どもたちを取り巻く子育て環境や課題、子どもを支えるための活動と、様々な視点があると思いますので、そうした中で、さらに茅野市の、これらの施策の充実に努めていきたいと考えているところでございます。</p> <p>また昨今、取りざたされております。お手元にも資料があって後でご説明をさせていただきますけれども、子どもの貧困という課題、これが大きくなってきております。</p> <p>当市でも昨年度、実態調査を行いました。それに基づきまして、今年度、子どもの貧困対策推進計画といたしまして、「茅野市こども家庭の豊かな未来づくり推進計画」を策定しております。今回素案という形で、皆様方にご提示を</p>		

	<p>させていただきます。</p> <p>これにつきましても、皆様方からご意見をいただきたいと思っておりますけれども、昨今は、子育ての環境も大きく変わってきて、いわゆる経済的な側面、就労支援ということでしたり、それから、いわゆる児童福祉、虐待とか色々なことも出てきておりますので、児童福祉という視点も必要になってまいります。</p> <p>非常に多岐にわたる視点からの総合的な判断というものが求められてきているのかなあと感じているところでございまして、皆様方からも、そうした視点も含めて、ご意見をいただいて、より実効性のある計画を策定していきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。</p> <p>いずれにいたしましても、皆様方から、自由闊達なご意見をいただく中で、この計画を策定していきたいと思っておりますし、この茅野市の子育ての施策全体を、進めていければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます、私からのご挨拶に代えさせていただきますと思います。</p> <p>今後とも皆さんどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>※市長は他の公務のため退席</p> <p>4 教育長あいさつ</p> <p>こんばんは。19時という貴重な時間にお集まりいただきありがとうございます。この会ですが、2年ぶりになります。ちょうど2年前、この会場に座っていたことを思い出しています。</p> <p>さて3日間の連休もあり、子どもたち元気に登校いたしました。その中で、修学旅行であります。昨年までは、遠くには一切出かけず県内、近いところ、あるいは運動会が分散縮小という形でしたが、修学旅行の方も県外やかなり離れた場所まで拡大して、子どもたちの活動、だんだん戻りつつあるという、そんな状態であります。</p> <p>さて、今、市長が、ご説明申し上げましたように、本日の会議、市の2つの大きな計画の進捗状況、それからもう1つ、茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進計画、これは新たなものになりますが、これについてのご意見を伺いたいと思います。</p> <p>平成30年度になりますが、茅野市子ども・家庭豊かな未来づくり推進本部というものを庁舎内に作りました。</p> <p>そして、令和元年になりまして、国から法の改正があり、この計画の策定は、各市町村に義務づけられると同時に、貧困の連鎖を必ず断ち切っていくという方向が出されたものです。</p> <p>今日は皆様方の忌憚のないご意見をお伺いする中で、この計画に、魂を吹き込むといえますか、より子どもたちが幸せになっていく方向を作り上げてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>5 自己紹介</p> <p>各自自己紹介</p> <p>(代理出席)茅野警察署署長 市川委員 代理 中山生活安全課長</p> <p>(代理出席)諏訪地域振興局長 宮原委員 代理</p> <p>河西総務管理課県民生活係長</p> <p>6 会長・副会長選出</p> <p>会長副会長の選出につきまして阿部子ども課長からご説明させていただきます。</p>
事務局	

こども課長	<p>会長副会長の選出につきましては、条例の規定では、委員が互選することとなっております。事務局の腹案といたしまして、会長に、名簿番号1番のどんぐりネットワーク茅野代表幹事の市川純章委員、副会長に、名簿番号2番の読り一むinちのの会長両角薫委員にお願いしたいと考えておりますのでお諮りいたします。</p>
事務局	<p>それではただいま事務局からの腹案ということでご説明させていただきました。皆さんの方から何かありましたらお願いをいたします。</p> <p>【一同より異議なしの声】</p>
事務局	<p>それでは、腹案通りでよろしいでしょうか、ありがとうございます。 それでは、市川会長、両角副会長は前の席に移っていただき、一言ご挨拶を頂戴して当会議の進行の方を引き続きお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>互選いただきましたどんぐりネットワーク茅野の代表幹事の市川です。 茅野市のこども・家庭応援計画には、第2次の策定の時に関わったのが最初かなと思っています。 その前にも、青年会議所で、茅野市の子どもの事業に触れていて、その後はどんぐりネットワークの幹事会に入り、12年ぐらい経ったかなと思います。 その間に、市のPTAの連合会長等をさせていただき、市は色々施策を行っていることを十分理解しておりますし、すごいなといつも驚いております。 近年は豊平小学校の学校評議委員、そんなことも務めさせていただいております。 今年から、組織の代表幹事になりました、どうぞよろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>両角薫と申します。 委員としては2期目になると思うのですが、前の時はコロナ禍ということで、会議も1回開かれただけで、何の役も立てなかったわけですが、それぞれ皆さんのお力を借りしながら、第2期目、副会長ということでやらせていただきたいと思っています。 どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>規定では、会長が議長になって議事を進行せよということがありますので、どうぞよろしく願いします。 次第の7番、茅野市こども・家庭応援会議の役割についてということで資料2番に基づきまして、事務局よりご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>7 茅野市こども・家庭応援会議の役割について 事務局は、資料2に基づき、本会議の目的や条例上の定義、委員の役割等について説明した。</p>
会長	<p>茅野市の子育ての要請に基づく条例ということで、とても詳しく規定されていますので、ぜひ読んでいただきたいなと思います。市民の役割、行政の役割等がいっぱい書かれていますので、心強い条文かなと思っています。</p>
会長	<p>それでは、次第の8番に移りまして、会議事項の(1)からいきたいと思います。事務局より説明お願いいたします。</p>

事務局	<p>8 会議事項 (1) 審議会等の会議の公開の確認 事務局は、資料3に基づき、本日開催のこども・家庭応援会議について、公開の対象となる旨を説明した。</p>
会長	<p>会議の公開について委員の承認を諮ったところ、全員異議なく承認した。</p>
会長	<p>会議事項(2)、第3次こども・家庭応援計画の進捗状況について、資料4に基づいて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
こども課長	<p>(2) 第3次こども・家庭応援計画の進捗状況について 資料4に基づき、どんぐりプランの進捗状況について、全体の進捗は概ね順調という総合評価と、施策目標ごとの進捗評価、主な取組内容や成果、課題、改革改善の具体的内容について説明した。 今後の重点化施策として、施策6のこども・家庭への支援の充実をあげ、国が来年設置するこども家庭庁の動きを注視しながら、「育ちあいちの」と「子育て包括支援センター」を見直すとともに、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもの包括的な相談支援を行うための体制強化を考えている旨の説明がされた。</p>
会長	<p>各委員より質疑、質問、或いは何かコメント等を、お願いしたいと思います。 皆様は子ども子育ての色々な団体の所属になりますので、特にこういった施策の中で関連しているところとかもあると思いますので、そういったところを重点的に見ていただいて、何かこの評価、課題、改善等のことに対して、ぜひ助言や質問等をお願いしたいと思います。しばらく討議の時間を取りたいと思います、いかがでしょうか。 やや遅れているとある中には、コロナがあっという間にやりたい事業ができなかったところを気にしている所があるのかと思いますが、それでも概ね順調という評価をしているようなことも多いと思います。これについてのコメント等があればということになります。</p>
委員	<p>質問をお願いします。子どもの貧困というふうなことが言われていますが、高校を卒業して大学等に行く進路選択は、やっぱりある程度家庭の経済状況の影響を受けるのだと思います。 茅野市のホームページに平成30年度の高校卒業後の進路状況がでていますが、その後の大学進学率或いは就職率は近年どんな数値になっているのか教えていただきたい。 平成30年については、例えば、高校卒業後の大学進学率は58%、就職率が20%というふうになっていますが、最近の一番新しいところでは、この値がどんな風に変化してきているか、家庭の経済の貧困が広がる中で大学進学率が落ちている傾向があるのかどうか、教えていただきたい。</p>
会長	<p>茅野市の統計を把握しているか、ということよろしいですか。 どんぐりプラン自身は、0歳から18歳までで、大学入手前までになるのですけれど、大学を決めるのは18歳までですから、そういうのはやっぱり把握してもいい数値ではあるかもしれませんね。 大学の進学率は58%ですか、すごいですね。日本の平均は50%なので、58%というのはちょっと多いなというのが僕の印象です。</p>

委員	<p>平成30年度までしかなかったですけど、ここ十数年間は五十数パーセント、平成22年に67%というとても高い数値もあったようですが、あとは50%台後半ですね。</p> <p>これがコロナや家庭の貧困などの影響からの変化なのかということです。</p>
こども課長	<p>この数値は、企画課で学校基本調査というもので調査をしているようです。今はその資料を持ち合わせていないので、調べさせていただいて、後日ご報告させていただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、僕の方からちょっと質問があるのですが、施策8の地域で支える子育ての充実というところの、魅力あるコミュニティスクール、子育てに関する人の仕組みづくりというところで、茅野市型コミュニティスクールというところの課題の中で、学校評議員との関係をどのようにしていくかが課題である、というふうになっているのですが。</p> <p>僕の感想からすると、地域で支える子育ての応援の充実というところで見ると、コミュニティスクールと例えば地区ごとにある子育て部会とか、そういったものとの関係をどうするのかというのも、一つあるのかなと思います。</p> <p>学校の中においては、確かに評議員というのがいて、僕も評議員をやっていたこともありますが、コミュニティスクールの会議するとき、半分ずつ出席して半分ずつ出たりとかというのがあったりしますけども、その辺、学校評議員との関係のことをどう考えているか。</p> <p>あと、結局コミュニティスクールのメンバーには、地域の主だった人たちが入っているんで、そういう意味では茅野市が設定している、子育て部会の仕掛けとの関係も、もう少しあっていいのかなと思うんですけど、その辺はどのような認識になりますか。</p>
学校教育課長	<p>茅野市版コミュニティスクールですが、校長の権限と責任のもとに、学校の主体性、校長の経営方針を軸として行っている団体になりますので、基本的には学校が中心となっております。</p> <p>地区の子育て部会に関しましては、その地区ごとの市民活動として地域の子ども活動をされていますので、重複している部分もあるかと思いますが、主軸がどちらにあるのかというところで住み分けがされていると考えています。</p> <p>その中で、学校評議員が、このコミュニティスクールとはまた別で組織されていて学校に関わることとなりますので、ここをどういうふうにして運営していくかというのが課題ということで、反映させていただいております。</p>
会長	<p>なるほど、今、僕が評議員をやっている感じからすると、学校評議員は、学校でやっていることをどう評価するかという評議なので、一方で、コミュニティスクールと一緒に考えて運営するということだから、そもそも役割が違うので、あんまり悩むところじゃないかなと思うんですけど。</p>
学校教育課長	<p>今後、また国型のコミュニティスクールに変えていくというような動きがあれば、その中で評議員が一体化してくるのではないかなというふうには考えております。</p>
会長	<p>わかりました。ただ、茅野市型コミュニティスクールというものがいかなるものなのかというのがもう少し出るといいかなというのは僕の印象です。</p>

<p>委員</p>	<p>施策3の学校の充実のところ、学校の中でコミュニティスクールをいろいろやっというところはわかるのですが、施策8の地域で支える子育て応援の充実にあるのであったら、もっと地域と繋がっていくところを重視する方向になるので、学校の中で閉じるというよりは地域とどう繋がっていくかになるのかなという印象も受けましたので、ぜひ、考えていただければと思います。</p> <p>コロナ禍ということで、すべての事業が割と概ね順調ということは、致し方ないことだと思います。</p> <p>ただ、肌で感じたり、ママやパパたちや学校へ行っている子を持つお父さんお母さん、保育園の子を持つお父さんお母さんたちの様子を見たり、子どもの様子を見たりしている中では、学校の行事、例えば、保護者会やPTA、参観日の後の保護者会だとか、いろんな行事で集まることとか、そういう機会も割と少なくなってしまうと、親同士の繋がりが薄れてきていると思います。</p> <p>だから、お友達の子どものお母さんがどなたかよくわからなく、コミュニケーションを取ることも難しくなっている。保育園も同じように、運動会もあり、そういった親も子も一緒になって集える場所が、このコロナ禍でなかったのでそういうところが薄くなってきている。</p> <p>これは仕方ないのだけれど、コロナの後、また元に戻すためには、今までやってきた活動を、この中でも書いてありましたけれども、一つ一つしっかりPRしながら、もう一度基からしっかり仕掛けし直して広めていかないと、ちょっと大変かなというのを感じています。</p> <p>今話しましたように、お母さんたちもとても付き合いが薄れているので、寂しさを感じたり、子育てが孤立化したりしています。昔、どんぐりプランができたきっかけは、孤立している親を支援していくところから始まったが、そういったことがまた出てきてしまっているの、その辺を、このプランの見直しするとき、コロナの後を意識して、しっかりみんなで考えていただきたいなと思います。という意見です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。そうですね、コロナというのは、多分このプランを立てた時には想定していなかったことで、今下落したことがコロナなのか、施策の失敗なのかってなかなか難しいところですね。だから、注意深くこの回復を見なければいけないですね。</p> <p>例えば、そういう面では、コロナだからやらなかったとか、例えば親育ちの推進というところにあるような、1日保育士体験、これって今は中止をしているのですよね。そうすると、今後は何でもかんでも中止じゃ無いよという中で、どうしていくかみたいなこと、改善としては何か考えているのでしょうか。</p> <p>これは、コロナがあっても、ちゃんと注意しながらどんどんやるという、そんな方向なのでしょうか。</p>
<p>幼児教育課長</p>	<p>1日保育士体験はレベル4でも実施するというので、ただレベル4の場合は半日に、現在レベル3になりましたので、すべての園で実施できるという状況ではあります。</p> <p>しかし、感染レベルが下がっても園にリスクがある場合が多いものから、なかなかそこが実施できずにいるというのが現状かと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>コロナだから何でもかんでも中止にはしていないということを聞きまして、それを知らなかったので心強く思います。さっき勅使川原委員からありましたよ</p>

委員	<p>うに、この親の繋がりとかを助けるということもこの施策に入っている。</p> <p>政策目標4の人育ちというところは、子どもだけじゃなくて親たちも育たなきゃいけないというねらいがあるわけなので、例えばそういう関係性を作るというのにも必要なかなと、そんなふうに思います。</p> <p>進捗状況の中で、このコロナ禍の中でも、順調とか、概ね順調とあるのですが、4番の体験機会の充実について、遅れているという評価、しっかり有り体に進捗評価をしていただいている、勇気を持って、遅れていると書いていただいたのが、私も少しここに関わっておりますので、こういうふうに言っていたらよかったかなと思っております。</p> <p>リーダースクラブの活動ができなかったことで、今後の会員が減少すること、技術の継承が困難となったと、全くこの通りだと思っております。このコロナによって、高校生の子どもたちが中学生を指導する、中学生の子どもたちが小学校の5年生あるいは6年生を指導するという、そういうチェーン、鎖の輪が1回切れちゃったのです。</p> <p>さっき勅使川原委員がおっしゃったように、これを元へ戻すのに、すごい労力がかかるのです。</p> <p>自然にそういう繋がり、異年齢の繋がりができてきたものが一旦途切れると、これを修復するのにどれだけの労力がかかるか。これは、ここに関わっている人たちだけじゃなくて、ある意味、行政と学校とが協力をして、こういった子どもたちリーダースクラブをやりたいよと言う子どもたちを、やっぱり出さなければいけないかと思っております。</p> <p>いいサイクルで回ってきたのが切れた時、それをまた元に戻すのにかかる労力が大変だというのはあります、他のところでもそういうところあると思うので、ぜひ、行政、学校のお力を借りたいなと思っております。</p>
会長	<p>ほとんど丸3年ぐらい何かが抜け落ちてしまっていると、未経験の人たちがどんどん増えて、再起動するのが大変じゃないかと言うのをやはり思います。</p> <p>そういうのも、プランの見直しや再策定の中で、その回復というのが新しいテーマに入るかもしれませんね。</p>
委員	<p>親育ちの推進のところでは1日保育士体験というところが出ていますが、野あそび保育笹原では、1日保育士体験募集みたいな感じで全部日程が出ていますが、ほぼ埋まっていて、結構お父さんの参加も多くて。</p> <p>それで、ここに1日保育士体験しか書いてないのですが、例えば土曜日の日に親子遠足があったり、園の御柱祭があったりとか、親が結構出て行ってお祭りをやったりというところで、横の繋がりや先生との繋がりができたりとかということで、コロナ禍ではあったのですが、積極的にやっていたので、親としても園の行事に参加しているという感じがして、ものすごくありがたかったです。</p> <p>多分、人数が多い園だとそういうこともちょっと難しいのかなと思うのですが、1日保育士体験というのだけにしてしまうと、お父さんはちょっと難しいのかなと、土曜日の日に行事をやっていたら、先生たちの休日出勤になってしまって大変かもしれないけれど、そういうのがあれば、親としても、園に関わる機会が増えるのかなと思いました。</p>
会長	<p>親育ちの推進というのが、もっと広いところで、じゃあ推進が進んでいるの</p>

委員	<p>かどこで評価するかという項目はいっぱいあるということですね。</p> <p>私も1日保育士体験というものを、過去3人の子どもがいて、ちの保育園さんの方でお世話なりまして、1年ごと毎回出ていきました。ただ、一番のきっかけは何かと言ったら、先生のすごいアピールで、本当は嫌だったのですよ、当時思い出すと。ただ、1日保育をやってみた時に、やり終わったらすごく楽しかったってことがあって続けられたのと、いろいろ考えたら、どういうふうを選んだのかなと思ったら、給食を見た記憶があって、食べたい給食の日を選んでいたなど。当時の記憶だと、パパ友とも話したのだけれど、そういう時に出たって話があったから、給食のアピールをしてもいいのかなと、ふと思いました。</p> <p>あと私は、当時長男の時にちの保育園の副会長やらせてもらって、その時はまだコロナは全然なかったのですけれども、パパ会というのをやらせてもらって、それはたぶん、園長先生とかもいないときの園を借りて、今はできないと思いますけども、バーベキューとかさせていただいた。</p> <p>ただ、バーベキューが目的ではなくて、園にあるメインの駐車場のところに今も残っていると思うのですが、駐車場で黄色い文字で何か作ったのですよね、パパ友だけで。役員たちで考えて、あったことをプレスリリースもして新聞にも載せたので。</p> <p>やっぱり、そういう率先できる人たちも中にはいるのかなと思うので、そういう人たちを少しでも見つけていければ。</p> <p>こういう部分の人たちを、やる政策に何か引っ張り込めるような人たちを探してもありかなというのは、ちょっと思った意見として受けとめていただければと思います。</p>
会長	<p>そうですね、知ってもらわなければいけないということでPRをしっかりしていくことで、ここにも改善の具体的なPRって書いてありますし。</p> <p>もしかしたらちょっとしたインセンティブ設計というものもあるかもしれないということですよ。</p> <p>食べ物に釣られるとのことでしたが、ちょっと学生の話を知ると、食べ物が食べられるということ、本当はその事業そのものに行きたいのだけれど、恥ずかしいので、食べ物を食べに行くって言い訳で参加するとかというような、何か面倒くさい話も聞いたことがあるので。</p> <p>ちょっとしたそういう設定は、1回経験すると考えが変わりますからね、そういうのもあると面白いですね。</p> <p>そろそろ次の議題に移りたいと思います。</p>
幼児教育課長	<p>(3)第2期茅野市子ども子育て支援事業計画進捗について</p> <p>資料5に基づき、第2期茅野市子ども子育て支援事業計画の進捗状況について、策定趣旨や位置づけについて説明した上で、14頁の確保方策と実績について説明した。</p>
会長	<p>委員の方から質問や意見コメント等をお願いしたいと思います。</p> <p>ちょっと僕がこれ見てお伺いしようかなと思ったのは、これは多分、茅野市の子ども・子育て支援事業と国が言ってきた総合的な子どもの包括推進というのは、これは国が言ってきている新放課後子ども総合プランであって、茅野市が想定していなかったということで良いのですか。</p> <p>しかし、それがこの中には組み込まれてまとめられているので、そこはどうと</p>

<p>こども課長</p>	<p>らえているのかなと思って。 特に、例えばですね、放課後児童クラブと学童クラブが言い分けられているような、同義で扱われているような、何かそこがちょっと資料を見るときに、読みづらいなと思ったのですけども、どんな風な感じなのでしょう。 国が言っている施策が茅野市の考えていたことよりも後から出てきたのではないかなと僕は思っているけれど、茅野市はどう捉えているのか。 学童クラブと、放課後児童クラブって同じということでもいいのでしょうか。 資料9頁から、(4)総合的な子どもの放課後対策の推進というところで、そこで概要が、国は新子ども放課後総合プランという形であるのだけでも、茅野市が考えたときに、これはあったのか、無かったのか、時系列的にどっちだったかなと思って。どうでしょうか。国を受けて茅野市が作った、そうじゃないですよ。</p> <p>第1期の時にはそういった国の施策というのが無く、第2期で入ってきた訳ですが、茅野市でやっている学童クラブと言うのは、学校が終わってから、親御さんがお迎えに来るまで子どもの安心安全を守るための居場所という形で行っています。 しかし、国の言う新総合プランというのは、学童クラブの他に、放課後子供教室と言うような、例えば、スポーツ教室とか、何か行事的なものを、そこに付けてやりなさいよというようなプランを謳っております。 全国でも、学童クラブの子が、学童クラブ以外で、そういった放課後子供教室みたいなどころへ参加して、いろんな活動をして、また学童に来るとか。 例えば、茅野市の場合も地区こども館がありますが、もし茅野市が今後、放課後子供教室というものを開催していくということであると、そういったある意味での居場所というのを、推進していきなさいというようなことになっています。 茅野市としましても、今後コロナが収束していく中で、子どもの居場所を考える時に、またその辺を充実していくことも方向性として、考えていきたいというようなところもあります。 そのためには、国がいろいろな補助金を出しておりますので、その補助金をもらって運営していくという形で、今後考えていきたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>第1期の時には無かったけれど、第2期はそれを受けての話になっているということですね。 これを読むと、放課後児童クラブが学童クラブ相当で、拡張したのが放課後子供教室ということに分けていて。 それで、僕は第1期の所かなと。国から出てきた時の話としてどんぐりネットワーク茅野でよく議論になっていたのは、茅野市は国が言う前からもうやっていたとも言えるよねと。 そんなことがあって、さて、国の要求をどう消化するかというのが、かなり喧々諤々な議論が行われ、まあ、困っているという感じだったのですが。 でも、これを見ると、まだ困っているという感じは伝わってくるかなと。 放課後子供教室というのは検討したいが、実施はしないという、そんな書き方になっていて。 まだ結論が出ていない、でもここでも議論しないと書いてあるので。これはすごい書き方しているのだなと、議論しないって書いてある。 放課後子供教室はこども館ではやらないと決めているのだから、ここでは検討しないというのが12頁に書いてあります。面白いと思って。</p>

<p>こども部長</p>	<p>状況よくわかりました。でも、考えていきたい、検討しますとも、11ページに書いてあるのですよね。まだまだそこは不明確なことですかね。</p> <p>ちょっと補足させて説明させていただきます。</p> <p>地区こども館の運営というのは、市の独自の事業として実施をしているのですが、色々と財政的なことを考えた時に、国の使えるお金を十分活用しながら、子どもの居場所というところを存続していきたいという願いを持っています。</p> <p>その中で、学童クラブが6年生まで拡大して充実してきたことと、いわゆる茅野市が願っていた地区こども館のあり方というものを、どう整合性を取っていくかということも1つの課題になっています。</p> <p>そのため、今後は放課後子供教室という考え方をどう融合させていくかということもひとつの課題になってきています。</p> <p>ただ、放課後子供教室をやる時は、コミュニティスクールが国型であるということが条件の一つになっているので、その部分をどのように考え方を持っていて、これから子どもの居場所というものを、放課後の居場所をどういうふうに作り上げていくか検討しなければいけない部分があります。</p> <p>方向性をどのようにしていくかという所も、まだしっかり明確なビジョンを立てているわけではないので、国のそういうものを活用しながら、これからより充実していきたいということで、この計画の中に位置付けをさせているということです。</p> <p>また皆さんからご意見聞きながら進めていかねばと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>市民協働で方向を作っていかなきゃいけないですね。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと初心者的な質問で、8頁のところに、利用者支援事業というのがありますよね。</p> <p>私は子育てが相当昔に終わっているものですから、こういう事情に詳しくないのですけれども、この内容は具体的にはどのようなことを言っているのかがよくわからなかった、何をしているのかがわからなかったものですから、ちょっとご説明していただきたいのが1点。</p> <p>それともう1つですけれども、妊婦の数といいますか、テレビでは、コロナで少子化に拍車がかかったというような話があるのですが、それは茅野ではどうなのかということも、もともと子どもが減っているにしても、ここがかくんと減ったのか、それとも維持しているのかということをお聞きしたいと思います。</p>
<p>健康づくり推進課長</p>	<p>6ページに妊婦一般健康診査事業として、妊婦健診の数字が載っています。</p> <p>この妊婦健診をやらないまま産む方という人は減多にいらっしやらないので、この数が実数に近いと思っていただいて大丈夫かと思えます。</p> <p>1の見込み数を見ていただく通り、コロナでなくても、だんだんに減ってくる見込みであったというところでは。</p> <p>実際にコロナの、特に初年度の頃は妊娠数がすごく少なくなったというのは、マスコミ報道などでもあったのですが、茅野市では実はそんなにダメージはなくて、さほど変わらずに、普通に少なくなってきたという状況です。</p> <p>出生に関しては、当初見込みでいたものよりも少し横ばいになってきているような傾向もあります。</p> <p>ただ、今後、そのコロナの明け具合によって動向が変わってくる可能性もあります。子どもの数はとても大事な部分でもありますので、注目しながらいき</p>

	<p>いかなというふうになっているところか。</p> <p>それともう1つ、8ページの⑩の利用者支援事業とあります。</p> <p>利用者支援事業の内容自体はここにありまして、子ども又は、その保護者の身近な場所で、教育、保育、保健、その他の施設や地域の子育て支援事業等の情報提供ですね、それから、相談や助言などを行いながら、関係機関と連絡調整を実施するというのが、利用者支援事業の内容になります。</p> <p>ここで、国で想定している事業の形態としては、いろいろなタイプがあり、基本形はいろんな専門家を全部そろえてやっていきたいと思いますという形、特定型というのは茅野ではやっていないのですが別の形、母子保健型というのはいわゆる昔でいう保健センターで健診を中心にやるような形で母子保健を中心に行っていくようなものということです。</p> <p>茅野市では基本形と、母子保健型の2つを、2ヶ所でやっているのが利用者支援事業の基本的なスタイルになります。</p> <p>実際に基本形はこども課で、母子保健型は健康管理センターで行っており、互いに連携し合いながら、情報共有や調整等を行っています。</p>
委員	<p>どういう人を対象に、どういうことをしているのか。</p>
健康づくり推進課長	<p>両方とも全市民が対象になります。</p> <p>基本は相談ですので、相談されたい方は、どうぞ皆さん来てくださいというスタイルですが、特に、母子保健に関してはプッシュ型、いわゆる、全数把握が基本になりますので、検診に来ない人は全員追いかけるというのが基本のスタイルになります。なので、相談したい人だけ来てくださるのではなくて、何もいない人も確認させていただきますというスタイルが母子保健型です。</p>
委員	<p>これを読むと、かなり手厚くやっているという印象があるのですが、その割に、この件数が1件とかというのがよくわからなかった。</p>
健康づくり推進課長	<p>箇所という意味です、1か所ずつ、計2か所だという意味です。</p>
委員	<p>総合的な子どもの放課後対策の推進ということで、先ほどから出ていたり、事務局の方からも説明があったりしたこども館と、学童クラブ、放課後子供教室について。</p> <p>最初、第1次どんぐりプランを作り上げた時の地区こども館の中身については、この放課後子供教室でやるようなこと、地域の人たちに関わっていただいで、そこで交流ができる、色々教えてもらう所というのを考えていたりねらいとしていたり、地区こども館の利用の仕方はそういうものを予定していたと言うか、考えていたのです。</p> <p>しかし、実際に動き出した時には、地域の人たちが関わっていただくのがなかなか難しくなっていて、現状が違った形に持って行ったのではないかと思います。</p> <p>地区こども館も、色々な意味で理念があったりしながら動いているのですが、こうやって作った時からもう随分時代も流れてきていて、今必要としている人たちは時代でいろいろ変わってきているので、地区こども館の利用の仕方も含めて、もう一度しっかり考え直すことが必要かと思えます。</p> <p>ちょうど次のプランの時に考え直して、学校のすぐそばにあって、学校の教室はあまり離れていないところにあって、校庭は、共同で使えるようなところがあるので、学童クラブと、放課後子供教室、地区こども館、もう一度本当にどこで</p>

<p>会長</p>	<p>どういうふうに、何をしたらいいか、地域の人に関わってもらうのにはどうしたらいいかということ、次のプランの中で考えていけたらいいのではないかなと思います。</p> <p>何回も繰り返すようですけども、放課後子供教室の内容は、本当に当初の地区こども館の考えと一緒に思っています。</p> <p>どうもありがとうございました。他いかがでしょうか、時間ありますので次に行きたいと思いますが、実は僕はねちよと質問ってあったんですけど、一言だけ言って終わります。</p> <p>13ページの⑩に、放課後児童クラブの育成内容を、地域住民に周知させるとあるが、なんで行うのかがわからなかったの、後で教えてください。</p> <p>児童クラブの内容を近隣に知ってもらう必要があるのかというところで。</p>
<p>会長</p>	<p>次、(4)番、茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画の策定について、資料6に基づいて事務局お願いいたします。</p>
<p>こども課長</p>	<p>(4) 茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画の策定について 資料6に基づいて、茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画の策定について、計画策定の背景や目的を説明した上で、作成した素案の説明をした。</p>
<p>会長</p>	<p>これをまず僕が見て思ったのですが、どんぐりプランって広い枠組みだなと思っているのですが、これはどんぐりプランに含まれるのか、補完するものなのか。</p> <p>改めて資料④を眺めてみると。どんぐりプランの施策の中で、政策目標「支える」という2番目の項目が、それに当たるのかなと思って見てみると、貧困という言葉そのものは出てない。</p> <p>だからそういう意味では、どんぐりプランの広い意味を補完するようなところでこれが生まれたのかな、という印象は持ちました。</p> <p>ご意見質問等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>私が所属しております福祉21というのは、社会的な弱者から見たいろんな福祉政策というのをメインにやっているわけです。この中で、やっぱり一番困難なのは、いわゆる行政としてはできるけれども、地区で支えることがなかなか難しいことです。なぜかという、わからないからです。</p> <p>普通の子どもで、学校の問題とかではなくて、そういうのはなかなか表に出てこない。だから、どうやったら地区で支えられるのかということ。</p> <p>やっぱり、なかなか外に出したくないとか、そういうことがあると思いますので、地区で、社会で支えると言いつつも、現実に相談するのは行政にいつて、地区にはなかなかそういうのが出てこない。だから、そういうところを、どうバランスをとっていくのか。</p> <p>私も地区の方でいろいろ役やりましたけれども、支えたくても情報がなくて支えようがないというのが実態なわけです。それはそれでやむを得ないところもあると思うのですけれども、何かそういう形、地域との関わりも、もしできるならば考えていただきたい。</p> <p>少なくともやりたくてもやれないという実態があるものですから、そこら辺のところでは何か案があれば、行政の方でも考えていただきたいと思っています。</p> <p>いずれにしても、今までの感じでは、なかなか地区として支えが非常に困難</p>

<p>会長</p>	<p>ということもありまして、むしろこういうところに行政の方が注目してやっていただけというのは非常にありがたい話だと思いますので、ぜひしっかりやっていただきたいと思います。</p> <p>これは意見ですが、何か方策があるわけじゃないです。</p> <p>そうですね、多分、市民の間でも議論しなきゃいけないレベルですよ。行政も多分答えに窮すると思うのですけれど。</p> <p>僕がちょっと難しいかもしれないと思いつつも、最近の動向で思うのは、子ども食堂かなということです。</p> <p>一応貧困対策で生まれてはいるのですが、そうすると子ども食堂に行く人は貧困の子というように思われ、行かないということになる。</p> <p>そうではなく、子ども食堂は、子どもたちみんなの集まる場所だよということにする。</p> <p>貧困対策を地区で支えるというふうにすると、この人は貧困の人ということになるから、そうではなくすると考えると、裏で、陰で行政が支えつつ、地区では貧困の子もそうでない子も分け隔てなくやる、そんなことなのかなとイメージするのですが、行政何かコメントありますか。</p>
<p>こども課長</p>	<p>ただいまご意見いただいたように、貧困ということは福祉部局と非常に連携をしていかななくてはいけない問題であるということと考えております。</p> <p>一方で、現在行っている事業を見ると、やはりこども部や福祉部局だけとなっています。けれども、もっと他の部局でもできることはあるのではないかと考えています。</p> <p>今回、計画策定にあたり事業を取り上げたところ、やはり偏りがあるというなかで、全庁的に意識を持って、現在ある事業の中でも、取り組めることはないのか考えていく必要があるということ再認識できたところがあります。</p> <p>また、子ども食堂については、本当に茅野市においても団体が増えておりまして、こども課の方でも定期的に懇談会を持っております。</p> <p>その中で、相談などを身近なところで受けるのだけれど、なかなか行政の方は敷居が高かったり、行きにくかったりするというようなことで相談に来られないというご意見もうかがっています。</p> <p>懇談会の中では、それではそういった事例があるのであれば、行政からそこへ出向いて相談に乗ることもできます、というようなことをお伝えする中で現在進めているところです。</p> <p>この間もヤングケアラの講演会を聞く中で、やはり子どもが親以外に支援者を持つということが非常に大切で、その支援者が、子どもが今、穴の中に埋まってどうしようもないという状況から救いあげてあげることがまず一歩だ、というようなお話がありました。</p> <p>親以外に子どもの周りで支えたり、相談できたりする存在は非常に大切ということですので、是非地域でもアンテナを張っていただきたい。</p> <p>そして、行政として家庭や子どもにできることというのを、こちらにつなげていただければ、まだ支援が届いていないご家庭やお子さんにも届いていくのかなということを感じております。</p>
<p>会長</p>	<p>他何か意見やコメントあり、意見や質問等ありますか。</p> <p>これは、またパブリックコメント等をして、もう1回この会議で話題としていくというスケジュールにはなっております。</p> <p>ちょっと資料見ている、茅野市の統計が人数ベースで載っているのですが、</p>

	<p>確かに人数ベースは大切なのですが、少子化傾向があるので、割合というのを1つインデックスとして見せてもいいのかなと思っています。</p> <p>確かに絶対数は減少しているけれど、それは子どもの数が減少して減少しているという話なのか、そうじゃないのかというのは一つの目安かなと思ったので、そういうインデックスもあっていいかなとちょっと思いました。</p>
委員	<p>13頁の相談できると思う相手というところの、その他の大人というのは具体的にどんな大人なのか、もしわかれば教えていただきたいです。</p>
こども課長	<p>13頁のその他の大人ですが、アンケートの回答にその他の大人を答える欄がありまして、子ども食堂とか、選択肢の回答に当たらなかった場合にお答えいただいたのかと。</p> <p>今、一人一人の回答が無く確認できず申し訳ございません。</p>
委員	<p>自分もバスケットのコーチをしていて、バスケットの相談はされたりはするのですが、たまに雑談みたいな感じで学校の相談とかされるので。</p> <p>そういう学校以外の習い事のようなところで、相談できる環境を作るのも一つありなのかなと思ったので、実際どのなのかなと、もしわかればと思って聞きました。</p>
こども課長	<p>今、資料で確認できまして、集計をした時に、そういった地域のスポーツのコーチとか習い事や塾の先生とかというのも回答の中にあっただようです。</p>
委員	<p>過去に親御さんからの育児放棄というか、ネグレクトというか、虐待というかを受けていた方について、その方が18歳を過ぎていると、児童相談所や市役所では、もう子どもではないのだからとなってしまいます。</p> <p>そうなると、どこに相談したらいいのかということすら分からず困ってしまう。</p> <p>病院受診や家の賃借契約などができないなど、18歳から20歳までの間が途切れてしまうということがあるのではないかと。</p> <p>子どもというのを18歳までという風にしてしまうと、ちょっと途切れてしまうところが出るのかなというのを感じるのと、そこもつなげてみていただければいいかなと思いました。</p>
会長	<p>今日の範疇ではないのかもしれませんが、何かその18から上のことで、どんなふうになっているというお話ができれば。</p>
こども課長	<p>こども課は、生まれる前から18歳ということで、18歳までを一区切りしているのですが、ずっと関わってきたお子さんについては、高校卒業された後も関わっているというケースがあります。</p> <p>また、茅野市の場合、各地区に、保健福祉サービスセンターというのがありますので、そこへつなげた方が良いケースについてはそういったところにつなげて相談支援に当たっております。</p> <p>しかし、どうしても18歳までどこにも相談しなかった方というのは非常に繋がりにくくなっています。</p> <p>小学校、中学校、高校そういった18歳までにどこかと繋がっていくと、そういった支援がどんどん繋がっていくということになりますが、それまで本当にどこにも相談できなかったケースというのは非常に対応に苦慮しているところで</p>

<p>会長</p>	<p>そういうことを考えると、18歳までに、どこかに相談支援で繋がるのが一番なのだなというふうに感じております。</p>
<p>委員</p>	<p>他質問や、意見等ございますか。</p> <p>関係行政機関の委員または職員ということで出ている立場でこういうことを言っているのかよくわからないのですけれど。</p> <p>この貧困の計画を立てるにあたって、この計画の中の具体的施策というものは、今ある行政の施策をここに並べて、書き出しているのですよね、きっと。こうやって計画を立てる時に、もっと何か必要なものがあるのではないかとことです。</p> <p>今ある政策で十分だからそのようにあげているのか、これだと、今ある施策をやっていけば茅野市はちゃんとできるのだ、十分だというふうに思っているのか、と読み取れる。</p> <p>本当はもっとその貧困対策に関わっている市民の人たちとかがいる中で、何かもっと必要なものがあるのではないかと、この計画の中に載せておいたほうがいいことがあるのではないかと、ということをもとに考えました。</p> <p>その辺はいかがですか。</p> <p>本当は何かもっと入れなきゃいけないことがあるのではないかと。それが何かあっていったら、今は私も言えないのだけれども、何か、経済対策とかその辺で、それも今あるものだけが載っているのだけれども、そんな声が上がってきていないのかなって思ったのですけど、どうでしょう。</p>
<p>会長</p>	<p>僕も読み解ききれなかったのですが、これは新しい何かでは無くて、今あるものをこのテーマで集めただけになっているのですか。</p>
<p>委員</p>	<p>わからないですよ、私はそう読んだのですが。</p>
<p>こども部長</p>	<p>今提示しているものについては、今までやってきた施策を目標ごとに分類して位置付けしています。</p> <p>これから貧困対策をしていくときに何が必要かを考えた時に、自分たちが自立できていくということがすごく大事なことになると思っています。</p> <p>例えば、就労であっても、行政だけの支援だけではなく、自分が働いて稼げるようになる、保護者も自分たちで働いて収入を得られるようになる、そういうことの中で自立していくということがとても大事なことになると思っています。</p> <p>ですので、そういう中で貧困の連鎖を断ち切る、また、学ぶということに関しても、自ら勉強したいというような環境になっていくことがとても大事になっていくかなと思っています。</p> <p>この計画を立てる中で、すぐに施策として反映できるものがあるかという部分については、皆さんのご意見聞きながら、こういう部分を施策の中に取り入れたらという意見があれば、新たに入れていく部分になっていくかなと思っています。</p> <p>今事業名だけを書いているので見えづらい部分があるかと思うのですけれども、行政の中でも、どうやったら自立をしていけるのかという視点から、どう施策に反映させていくか、どんなことをこれから展開していったらいいのだろうかというところも、考えていかなければいけないことと思います。</p> <p>そういうことから、今あるものと新たなものはまた考えていく必要があるなど</p>

	<p>思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>では、現段階では新たなものを盛り込んでいるという形にはまだなっていない くて、まだまだ素案を練っているところということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもの貧困に対する対策ということにフォーカスしているものだから、こう いう風な内容になるのだと思います。</p> <p>一方で、行政としては、もうちょっと問題を大きくとらえた時に、子どもが貧困 になった理由なんて、結局は保護者の問題ですよ。</p> <p>最初のところの前段を見ると、特にその保護者の貧困で問題なのはひとり親 家庭で、その大半は女性だと。</p> <p>実際ずっと問題になっていることですが、女性の非正規雇用というところ は、ひとり親家庭の女性が一生懸命働いても年間百何十万、それでは大学に やることができないとか、そういうところが大きな問題になっている訳です。</p> <p>この計画は、子どもにフォーカスしたもので、これで大体いいと思うので ですけど、一方で行政としては、その辺のところ、もっと雇用に関する問題とか、 地域の経済的な問題で、ちゃんと一生懸命働けば家庭をしっかりと養って、子ど もを育てていけるような給料をもらえるような会社であったりとか、事業所であ ったりとかが必要なわけで。</p> <p>茅野市単体でできることって限られちゃいますけども、やっぱり行政の施策 としては、そういう点に含めてもお願いしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>会社などは、採用するにあたり、その人について、色々わからないことが多 いと思う。</p> <p>例えば、入社してから、何か職場に適應できない、コミュニケーションが取れ ないなということが分かり、実は学生時代からスクールカウンセラー等のサポ ートを受けていたことが分かった、といったことがあると思う。</p> <p>職場に適應できない人たちは、結局やめてしまったり、休みがちになってしま ったりして、せっかく就職したのに、退職することになってしまいます。</p> <p>そうなってくると、貧困に繋がっていくのかなという感じがする。</p> <p>会社としても、その人がどんなことが向いているか、とか、どういうことに注 意すれば長く勤められるか、といった情報を得られれば、離職率を下げること につながると思う。</p> <p>そのために、高校の学校の先生などとの連携がもう少しあると違ってくるの かなと思う。</p> <p>せっかくなら、18歳までで切られてしまい、あとは会社などにお任せという風 になるのではなく、うまく繋がってくれるといいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。発達障害とかそういうのって、むしろ手帳や認定を受 けてしまう方が就職は有利になるとかありますね。</p>
<p>委員</p>	<p>受けずに頑張っている人が実は不利になるというのは言われていますね。他 ご意見ございますか。</p> <p>今色々お話を聞いている中で、パパ友たちとの話等から思い出したのです が、先ほど習い事って話があったのですが、両親いるのですけども、習い 事を出すことができない。</p> <p>子どもは行きたいって言うのだけれど、行かせることができないという話 があります。</p>

	<p>それはどんな理由かという、夜勤があるとか、忙しいとか、そういうのは結構な割合のいろんな方々が言ってらっしゃって。</p> <p>これは個人の意見だと思ってもらって結構なのですが、先ほど勉強というのもありましたけども、ここ最近だと勉強がすべてではないのかなと正直思っています。</p> <p>と言うのは、今はユーチューバーとか色々なことがあって、色々なことで稼げるようになるから、何が特化した才能になるか、正直私たちはもうわからない状態なのかなと思っています。</p> <p>なので、子どもが今やりたいことをやるためのきっかけ作りを、親が与えないといけないと思います。</p> <p>その親が、与えられる環境があればいいんですけども、それが難しい方に対し、要は貧困が多いという片親だったら、出られない状態にもなってしまうので、そういった方に対し何かできれば、今であれば「のらぎあ」を活用できて、習い事の場にも行かせてあげる環境等ができれば、一つのきっかけ作りになるのかなと思いました。</p> <p>やっぱり子どもの夢というのは、親は当たり前ですけど、この会議の場が一番きっかけを作れるのかなと思ったので、ちょっと意見として、どうしても伝えなかったのじゃべらせてもらいました。</p>
委員	<p>こういう会議にいくつか出たことがあるのですが、いつも思うのは、やっぱり皆さんは非常によくやられているわけです。</p> <p>けれど、国に物申したいという項目が何も無い。</p> <p>本当は現実問題としてはもっとやりたいのだけでも、仕組みがまだできてないから、行政でできるのはここまでですよということですよ。</p> <p>国の仕組みそのものがまだ不十分だからというのがあって、少なくともすぐできないにしても、要望としてあげる必要がある。</p> <p>ここからそれぞれの議会に行くのか、それとも国会議員の方に行くのか、それとも直接国に行くのか、どう繋がるかわかりませんが、この中で収めようとするから、どうしても不満が出てくるわけです。</p> <p>だから、私はその課題も、皆さんで考えて、仕組みから、国の仕組みから変えてもらうような道を作っておかないと、この中では頑張ってますしか言えないわけです。</p> <p>今、仕組みの問題でどうにもならないことが結構あるわけですよ、だから、実際にこの中に書くべき内容じゃないかもしれないけれど、付帯の内容として、例えば、こういう仕組みがまだ不十分だから、ここは国の方に何とかしてもらいたいというようなことを言う機関であってもいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>こういうのは、国から各市町村にやりなさいという指示が出て、こう集めるのですよね。</p> <p>これも3ページ見ると、市町村では、策定の努力義務ということを踏まえて策定しましたって書かれていて、言われたからやりますというふうになっている。</p> <p>でも、逆に言うと国がここにフォーカスしているのだから、出てきた問題に対して答える準備があるともとれるかなと思うので、どんどん言っていけるといいですよ。</p> <p>こういうのをやってくれ、市町村だけじゃできないのだからやってくれと。</p> <p>おそらくそういうのが、何かぶら下げてじゃないんですけど、ついているのではないかなと思うので、そんなのも活用していけるといいですね。</p>

委員	<p>そろそろですけど、これだけはというのがあれば、まだ一つ二つ、時間はありますけども、よろしいですか。</p> <p>では、ちょっと時間が延びてしまいましたが、これで、8番目の会議議事としての確認を終わりにしまして、9番のその他ということで事務局の方からよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>9 その他</p> <p>事務局から、茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進計画素案に対する意見を募集する旨の連絡をする。</p> <p>また、次回会議について、11月下旬また1月下旬に開催を予定していることを連絡する。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、今後の予定等が示されましたが、委員の方から、何かその他、会議全体振り返っての質問等、確認が欲しいことはございますか。</p> <p>では、以上で終わりにしたいと思います。</p>
副会長	<p>10 閉会。</p> <p>活発なご協議ありがとうございました。時間も大分延びてしまいましたが、以上で、令和4年度第1回茅野市子ども・家庭応援会議を閉じたいと思います。</p> <p>お疲れ様でした。</p>